TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　675語

The Face of the Manito

マニトの顔

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Alex

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　お日さまの中にすむマニトの顔はまぶしすぎて見られません。人々のねがいで、マニトの顔はお月さまに、そして山の岩へとうつっていきますが……。



Many years ago the manito of the Indians lived in the sun. Every morning the wise men of the tribe went to the top of a mountain, and as the sun rose in the east, they sang, "We praise thee, O sun! From thee come fire and light. Be good to us, be good to us."

After the warm days of the summer had come, the sun was so bright that the Indians said to their wise men, "When you go to the mountain top, ask the manito to show us his face in a softer, gentler light."

Then the wise men went to the mountain top, and this is what they said: "O great manito, we are but children before you, and we have no power to bear the brightness of your face. Look down upon us here on the earth with a gentler, softer light, that we may ever gaze upon you and show you all love and all honor."

The bright sun moved slowly toward the south. The people were afraid that the manito was angry with them, but when the moon rose they were no longer sad, for from the moon the loving face of the manito was looking down upon them.

Night after night the people gazed at the gentle face, but at last a night came when the moon was not seen in the sky. The wise men went sorrowfully to the mountain top. "O manito," they said, "we are never happy when we cannot gaze into your face. Will you not show it to your children?"

The moon did not rise, and the people were sad, but when morning came, there was the loving face of the manito showing clearly in the rocks at the top of the mountain.

Again they were happy, but when dark clouds hid the gentle face, the wise men went to the foot of the mountain and called sadly, "O manito, we can no longer see your face."

The clouds grew darker and fell like a cloak over the mountain, the trees trembled in the wind, the forked lightning shot across the sky, and the thunder called aloud.

"It is the anger of the manito," cried the people. "The heavens are falling," they whispered, and they hid their faces in fear.

Morning came, the storm had gone, and the sky was clear. Tremblingly the people looked up toward the mountain top for the face of the manito. It was not there, but after they had long gazed in sorrow, a wise man cried, "There it is, where no cloud will hide it from us." In the storm the rocks had fallen from the mountain top. They were halfway down the mountain side, and in them could be seen the face of the manito.

Then the people cried, "Praise to the good manito! His loving face will look down upon us from the mountain side forever-more."

For a long time all went well, but at last trouble came, for they heard that a great tribe were on the war-path coming to kill them. "Help us, dear manito," they cried but there was no help. The warriors came nearer and nearer. Their war-cry was heard, "O manito," called the people, "help us, help us!" A voice from the mountain answered, "My children, be not afraid." The war-cry was still, and when the people looked, for the warriors, they were nowhere to be seen. The people gazed all around, and at last one of the wise men cried, "There they are, there they are!"

They were at the foot of the mountain, but the people no longer feared them, for now they were not warriors but rocks. To keep from harm those whom he loved, the manito had made the warriors into stone. They stood at the foot of the mountain, and to-day, if you should go to that far-away country, you could see the rocks that were once warriors, and above them, halfway up the mountain side, you could see the face of the manito.

ずっとむかし、アメリカの先住の人々のマニトは、お日さまの中にすんでいました。毎朝、部族のかしこい人たちは山のてっぺんへのぼり、お日さまが東からのぼると、こう歌いました。「お日さま、あなたをたたえます！あなたから火と光がやってきます。わたしたちにやさしくしてください、やさしくしてください。」

夏のあたたかい日がやってくると、お日さまがあまりにまぶしいので、人々はかしこい人たちに言いました。「山のてっぺんへ行ったら、もっとやわらかでやさしい光の中で顔を見せてくださるよう、マニトにおねがいしてください。」

そこでかしこい人たちは山のてっぺんへ行き、こう言いました。「おお、大いなるマニト、わたしたちはあなたの前ではほんの子どもで、あなたのお顔のまぶしさにはたえられません。どうか、もっとやさしくやわらかな光で、地上のわたしたちを見おろしてください。そうすれば、いつでもあなたを見あげて、あらゆる愛とうやまいをささげることができます。」

明るいお日さまは、ゆっくりと南のほうへうつっていきました。人々はマニトがおこったのではないかと心配しましたが、お月さまがのぼると、もうかなしくはなくなりました。お月さまから、マニトのやさしい顔が人々を見おろしていたのです。

毎晩毎晩、人々はそのやさしい顔を見あげましたが、とうとう、空にお月さまが見えない夜がやってきました。かしこい人たちは、かなしい気持ちで山のてっぺんへ行きました。「おおマニト」とかしこい人たちは言いました。「あなたのお顔を見られないと、わたしたちはちっともしあわせではありません。どうか、子どもたちにお顔を見せてくださいませんか？」

お月さまはのぼらず、人々はかなしみましたが、朝になると、山のてっぺんの岩に、マニトのやさしい顔がはっきりとうかびあがっていました。

人々はまたしあわせになりましたが、黒い雲がやさしい顔をかくしてしまうと、かしこい人たちは山のふもとへ行って、かなしそうによびかけました。「おおマニト、もうあなたのお顔が見えません。」

雲はますます黒くなって、マントのように山にかぶさりました。木々は風にふるえ、ぎざぎざのいなずまが空を走り、かみなりが大きな声でとどろきました。

「マニトがおこっているのだ」と人々はさけびました。「空が落ちてくる」と人々はささやいて、こわくて顔をかくしました。

朝が来ると、あらしは去っていて、空はすみわたっていました。人々はふるえながら、マニトの顔をさがして山のてっぺんを見あげました。顔はそこにはありませんでした。でも、人々がかなしい気持ちで長いあいだ見つめていると、ひとりのかしこい人がさけびました。「あそこだ。あそこなら、雲にかくされることはない。」あらしのあいだに、山のてっぺんの岩がくずれ落ちていたのです。岩は山のちゅうふくにとまっていて、その岩の中に、マニトの顔が見えました。

人々はさけびました。「よいマニトをたたえよう！マニトのやさしい顔は、これからいつまでも山のちゅうふくからわたしたちを見おろしてくださるのだ。」

長いあいだ、何もかもうまくいっていましたが、とうとうこまったことがおこりました。大きな部族が、人々をほろぼそうとせめてくるという知らせがとどいたのです。「助けてください、マニト」と人々はさけびましたが、助けはありませんでした。せんしたちはどんどん近づいてきました。ときの声が聞こえてきました。「おおマニト」と人々はよびかけました。「助けて、助けて！」山から声が答えました。「わたしの子どもたちよ、こわがることはない。」ときの声がやみ、人々がせんしたちをさがして見ると、どこにもすがたが見えませんでした。人々はあたりを見回し、とうとうかしこい人のひとりがさけびました。「あそこだ、あそこにいる！」

せんしたちは山のふもとにいましたが、人々はもうこわくありませんでした。せんしたちはもうせんしではなく、岩になっていたのです。愛する人々を守るために、マニトはせんしたちを石にかえたのでした。せんしたちは山のふもとに立っていて、今でも、その遠い国へ行けば、むかしせんしだった岩と、その上の山のちゅうふくにあるマニトの顔を見ることができるのです。

たんご と クイズ　マニトの顔

sun お日さま	**mountain** 山	**moon** お月さま
face 顔	**rocks** 岩	**clouds** 雲
lightning いなずま	**warriors** せんし	

Q1 人々がマニトにおねがいしたことは？

① もっと雨をふらせてほしい　② もっとやさしい光で顔を見せてほしい　③ 夏を長くしてほしい

Q2 あらしのあと、マニトの顔はどこに見えた？

① 山のちゅうふくの岩　② お月さま　③ 池の水

Q3 せめてきたせんしたちは、どうなった？

① にげて帰った　② 人々と仲よくなった　③ 岩にかえられた

こたえ

Q1 ②　お日さまがまぶしすぎたので、人々はもっとやわらかでやさしい光の中で顔を見せてほしいとおねがいしました。

Q2 ①　あらしで山のてっぺんの岩がくずれ落ち、山のちゅうふくにとまった岩の中に、マニトの顔が見えました。

Q3 ③　マニトは愛する人々を守るために、せんしたちを石にかえました。今も山のふもとに立っています。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Alex（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。